

東京電力管内の請負を中心に 送電鉄塔の工事・ メンテナンス事業を展開 業界全体の発展を目指した取り組みも

概要

- 所在地 / 静岡市清水区興津東町234
TEL.054-369-1131
- 設立 / 1973年
- 代表 / 中西衛
- 資本金 / 2000万円
- 従業員数 / 39人
- 事業内容 / 架空送電線工事、架空送電線路鉄塔塗装工事、架空送電設備保守業務
- URL <http://www.kouwa-denki.co.jp/>

光和電気工事株式会社

今年で創業44年目を迎える光和電気工事(株)。同社は、東京電力パワーグリッド(株)の元請け仕事を中心に事業を展開している。昨今、どの業界でも人材集めに苦勞する中、擬人化キャラクターを使ったプロモーション活動に取り組むなど、柔軟な発想と経営力を持つ中西社長に話を聞いた。



中西衛社長

1973年に創業の送電線工事の請負会社
—まずは会社のプロフィールを教えてください。

中西 1973年に私の父が創業しました。送電線工事及びメンテナンスを請け負っています。送電線工事といつてもあまり馴染みがないかもしれませんが、写真をご覧いただければ、ああ見たことがある、という方も多いかと思えます。余談ですが、屋号に「電気工事」という名称が入っているため、一般の方から「エアコンの取り付けをやってももらえるか？」など問い合わせをいただくこともあります。後からお話しますが、周知するのが難しい業界だと感じています。静岡県は富士川を境に、東京電力(東)と中部電力(西)と電力会社の管轄が分かれています。当社では東京電力の仕事をお願いしています。エリアは静岡県東部から神奈川県西部、山梨県

が中心ですが、応援要請があれば全国どこにでも電気工事作業員(電工)を派遣できる体制を整えています。

私自身の経歴をお話しますと、中学生の頃には漠然とですが、将来は親父の後を継ぐんだらうなあ」と考えていました。1989年に大学を卒業し、東京都の日本工営(株)に入社。送電線事業部に配属となり、現場管理を任されていた。静岡に戻り、当社に入社したのは1995年です。現場に出て電線にも乗っていましたが、2005年に経営を引き継ぐことになりました。



送電作業の様子

自社の電工がさまざまな工事で活躍
—自社の強みはどこにありますか？

中西 直属の電工がいることです。大手企業は、自社に電工を抱えずに、協力会社から派遣してもらうことが多い。当社の場合は、社員の約半数

となる16人が電工として所属しているので、現場管理がスムーズですし、意思疎通も図りやすいと考えています。また、入社後にはクレームの運転や玉かけ作業をするための免許・資格の取得など、会社で支援するようになっています。私どもの業界では、一人前になるのに3年から5年を要すると言われていますが、現場で働く者同士で新人の成長を支援できることも当社の強みです。個人的な

感想を言えば、「現場は本当に仲がよいなあ」というのが率直な意見です。危険をともなう仕事ですから、常に安全意識を持つていなければなりません。休みの日も現場組と一緒に遊びに行ったりしていると聞きますが、緊張感を強いられる仕事だからこそ、オンとオフの切り替えが必要。そういう意味では、仲間意識が強いことは、会社にとってもプラス材料だと捉えています。

業界最大の課題は
人材の確保と育成

—業界全般について課題があると聞きます。

中西 いちばんの課題は、人材集めだと思えます。少子化が進み、どの業界も人を集めるのに苦勞していると思います。われわれの業界は特に認知度が低く、ともかく人が集まりません。商社に勤めたい、建築をやりたい、あるいは飲食店を経営したい…など、どの業種に進むにしても、大抵は「将来は〇〇になりたい」というビジョンを描くことができず、「電工になりたい」という人はあまりいないでしょう。私の場合もそうでしたが、この業界に入ってくるパターンはほぼ「つだけ、親がやってきた」ともしくは「親がやっている」というケースです。手前味噌ですが、当社の場合はある程度経営基盤が安定し

ています。他の業種と比べればそれなりの稼ぎもできますし、未経験で入社してきた社員は会社として責任を持って育てています。でも、人が集まらない。その課題を解決できればと考え、今春新たな試みを始めました。送電鉄塔擬人化キャラクター「ひかるあむ」を使った自社PRです。送電線アイドルをテーマに全国の絵師からキャラクターを募集し、今年3月エスパルスドリームプラザで総選挙を行いました。トップ当選した『ひかるあむ』は今年の新人社員として入社し、プロモーション活動を続けています。企画を提案してもらった(株)エスクリエイトの石川雅章社長からは、「萌えキャラを活用したプロモーションにともかく真剣に取り組んでほしい」と言われています。冒頭で「エアコンを取り付けてほしい」という問い合わせがあると話しましたが、当社のことはもちろん業界全体のことについても情報発信していくことで、一人でも多くの人たちに私どもの仕事への認知を深めてもらえればと考えています。

て楽なものではありません。地上何十メートルもの高さでの仕事は、危険をともなうこともあります。私も業界に入った時、最初に叩き込まれたことは「自分の命は自分で守る」という鉄則でした。今の現場は、身の安全を守るための器具や設備はしっかり整っているのですが、少しずつ経験を積んでいけば、必ず一人前になります。若い人たちにもつと興味を持ってもらえたらうれしいですね。最後になりますが、経営者として一つの喜びに、社員が育っていく姿を見守っていくことがあります。最初は不慣れでも、仕事を覚えていく間にある精神が芽生えてくるんです。「自分たちの仕事は、地域や地域の皆さまの暮らしを支えること」という使命感です。私自身も経営者として会社をしっかりと運営していくとともに、微力ながらも業界の発展に尽くす事業を進めていきたいと考えています。



送電鉄塔と送電線

が中心ですが、応援要請があれば全国どこにでも電気工事作業員(電工)を派遣できる体制を整えています。

仕事を続けていく間に
生まれてくる使命感
—最後に読者に伝えたいことはありますか？



「ひかるあむ」